



# 万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部  
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35  
慶應義塾大学医学部外科学教室  
TEL:03-5363-3802 FAX:03-3355-4707  
発行者：北野正剛  
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長  
和田則仁(慶應義塾大学医学部外科学教室)  
印刷：株式会社 dig TEL:03-3551-3060  
年2回発行 1995年4月創刊

## 「International Association of Endocrine Surgeons (IAES) 国際内分泌外科学会の活動状況報告」

医療法人神甲会隈病院 院長  
IAES President-Elect  
**宮内 昭**



IAESはノルウェー Bergen の外科医 Peter Heimann 教授の発想に始まりました。胃癌のため死の病の床にあった Heimann 先生は世界の内分泌外科医が一堂に会することが内分泌外科の発展のために必要であると考えました。1979年にISS/SICが米国 San Francisco で開催された際に、彼の呼びかけに応じて、内分泌外科医が一室に集まり IAESが発足し、初代 President として Selwyn Taylor が選出されました。以来、原則的に2年毎にISS/SIC会期に合わせてIAESが開催され、昨年スイス Baselでの学会で第20回を迎え、39年の歴史となりました。この学会は、会員数が約400名で世界の内分泌外科の真のリーダー達が揃っていること、また“Endocrine surgeons are friendly surgeons”がいつの頃からか学会のモットーの一つとなっており、そのため会員相互の交流が盛んであること、会員のIAES学会参加率が高いこと、学会参加者の会場滞在率が高いことが特徴です。

私は、師匠の大阪大学の高井新一郎先生(故人)に連れられて1981年スイス Montreux で開催された第2回学会に初めて参加し、以来昨年まで全てのIAESに参加してきました。IAESは創立以来、世界の内分泌外科の発展に貢献してきました。Presidentはヨーロッパ、アメリカ、アジア・オセアニアから偏ることなく選出され、我が国からは東京女子医科大学の藤本吉秀教授(故人)が1989年のカナダ Toronto で開催された学会にて President を務められました。日本内分泌外科学会とアジア内分泌外科学会はともにそれとほぼ同時期に設立されましたが、これらはいずれも藤本先生のご発案ご指導によるものです。これらの事例も世界の内分泌外科の発展に貢献したことの好例で

しょう。因みに、現在、私はアジア内分泌外科学会の Chairman を務めさせて頂いています。2003年のタイ国 Bangkok でのISS/SICは鳥インフルエンザのため余儀なく中止となりましたが、IAESはその翌年2004年にスウェーデン Uppsala で開催され、野口病院院長野口志郎先生が President を務められました。また、IAESでは Postgraduate Course を世界各地で開催し、内分泌外科を目指す若い外科医を教育養成してきました。私は1992年以来、教授陣の一人としてこれに参加・協力してきました。今年2018年は6月にギリシャの Athens にて開催されます (<http://www.endocrinesurgery2018.com>)。内分泌外科に興味がある方は是非ご参加下さい。

さて、昨年のスイス Basel での IAES 学会において Harvard Medical School の Gerard Doherty 教授が President に就任し、2019年のポーランド Krakow での学会を担当されることが決まりました。この学会において、私が図らずも President-Elect に推挙され、2021年にマレーシア Kuala Lumpur での学会で President を務めることになりました。万国外科学会日本支部の皆様、とくに日本内分泌外科学会の先生方には何かとご指導ご支援を頂ければ幸いです。



IAES President に就任された Harvard Medical School の Gerard Doherty 教授ご夫妻と、President-Elect に推挙された宮内と家内。2017年8月、スイス Basel にて。

## ISDS Vice President を 拝命して

熊本大学大学院消化器外科学 教授  
ISDS Vice-President  
**馬場 秀夫**



昨年8月にスイスの Basel で開催された ISDS の総会で新しい役員メンバーが決定し、浜松医科大学学長の今野弘之先生が ISDS の President に就任されました。我が国からの President の選出であり誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、President Elect には Prof. Alessandro Fichera が選出され、それと共に3名の Vice President が選ばれ、Prof. Simon Law、Prof. Dieter Hahnloser と小生が選任されました。北島先生・北野先生・今野先生のご推挙によりこのような栄誉ある役職を得ましたことを光栄に存じますとともに、その職責の重さに、身の引き締まる思いがしております。早速、昨年10月22日にACSの会期中に ISDS Executive Meeting が開催され、その会議に今野先生と共に出席いたしました。Basel で開催された ISDS に関する感想、反省と次回 Krakow で開催される WCS2019 プログラム (ISDS president elect の Prof. Fichera が作成の責任者) の内容に関して議論されました。最終的には3月16、17日チューリッヒで開催される ISS/SIC Board Meeting でプログラムの大枠が決定されることとなりますが、内容的には ISDS として 5 Free paper sessions、8 Main sessions、3 Combined sessions、Kitajima and Grassi prize sessions、ISDS General Assembly、

ISDS Presidential lecture などが予定されており、領域としては Upper GI Benign, Bariatric/Hernia, Upper GI Malignant Esophageal Gastric Tumor Board, Solid Organ Transplantation, LGI Benign, LGI Malignant Tumor Board, HPB Benign, HPB Malignant Tumor Board などからなります。次回がポーランドの Krakow での開催ですので、ポーランドの外科の協力が必要不可欠であり、演題を増やすためにも general surgeon が多数を占める東欧諸国や発展途上国の外科臨床の実情に沿った内容を盛り込む必要があり、我が国の国内学会とは若干異なる演題内容が多くなる可能性もあるかと思えます。しかし、我が国の存在感を示すためにも、次回の学会では我が国から多くの演題が出されることが望まれますし、是非皆様方には多数の演題登録していただき、学会に参加していただければと願っております。

Krakow は数年前に国際胃癌学会が開催された都市でもあり、その際小生も出席しました。ポーランドの南部に位置し、最も歴史のある都市のひとつで、17世紀にワルシャワに遷都するまではポーランドの首都として栄えた世界遺産にも登録された美しい街です。市街地はヴァヴェル城を中心にヴィスワ川の両岸に広がっており、織物会館、聖マリア教会、ヴァヴェル大聖堂などの観光名所もあり、また国立美術館、各種博物館などの文化施設もあるため、学会の合間を縫って、観光も楽しめる都市でもあります。会期が2019年8月11～15日とお盆の期間に設定されているため、学会に参加しやすい時期となっております。また、演題募集期間は2018年9月から2019年1月24日までとなっておりますので、多くの先生方に演題を出していただければと考えています。また、それと共に多くの先生方に ISDS の会員になっていただければと願っております。WCS2019 が盛会となるかどうかは、ISDS の如何にかかっておりますので、ご理解の上、ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

## 万国外科学会への期待 —若き外科医の国際感覚を磨く！

大分大学消化器・小児外科学講座 教授  
**猪股 雅史**



外科医の育成には、外科の技術 (Skill)・知識 (Science)・態度 (Spirit) の3本柱に基づく修練が必要だと言われてはいますが、その過程で、グローバル感覚を磨くことも重要な修練だと考えられています。医学は世界共通の学問であり、医療は世界を知ってこそ日本の適切な方向性の判断につながるからです。若い頃から積極的に国際感覚を身に着けることは医療人の育成に欠かせない大切な経験だと思います。

さて、外科医が最初に経験する国際交流の舞台は、その多くは国際学会での発表だと思います。英語での発表や質疑応答の準備はもちろん、現地にて海外医師との交流は、国や文化、宗教の違いの中で、医学の共通の目標に向けた想いを共感できる貴重な経験の場となるでしょう。またこの交流をきっかけに海外留学を実現した若手外科医も少なくありません。

このような背景の中、100年以上の歴史と伝統を有する万国外科学会は、2年に1度、World Congress of Surgery (WCS) 定期学術集会在開催されています。私も2011年横浜、2013年ヘルシンキ、2015年バンコク、2017年バーゼルで開催された学会に、毎回、教室の若手とともに参加し、大いに国際交流を楽しんできました。その万国外科学会の特色は、(1) 世界各国が開催地になるため、様々な国々の医療や文化を楽しめる、(2) 日本支部が充実しており日本からの参加者が多い、(3) Yokohama Awardをはじめ ISS/SIC Foundation Travel



(図1) 2015年8月23日 バンコクで開催のWCS会場

Scholarship を設立し若手外科医の育成に力を注いでいる、の3点が挙げられると思います。

万国外科学会で特に印象に残るのは、まず、2011年の東日本大震災後の大変な時期に、渡邊昌彦会長(北里大学)が横浜にて大変立派な会を開催され、その余剰金を用いて若手育成のための Yokohama Award を設立されたことです。また2015年のバンコク開催では、テロ爆破事件の直後にもかかわらず現地の厳戒態勢の中、滞りなく学会が開催され(図1)、この開催に合わせ、バンコクにある日本大使館にて、大分大学とタイのマヒドン大学、チュラロンコン大学との大学間協定を締結し、大分大学バンコク事務所を設立したことは、思い出に残る出来事となりました(図2)。さらに昨年、スイスのバーゼル開催では、若手医局員が Yokohama Award を受賞し、トラベルグラントの獲得に加え Davos GI Course を受講できたことは、この万国外科学会が若手外科医のグローバル感覚を磨く上で、まさに重要な役割を果たしていると実感した学会参加でした(図3)。

万国外科学会のすばらしい伝統と運営に際して、歴代支部会長の故出月康夫先生、比企能樹先生、山川達郎先生、Court of Honor にご就任の北島政樹先生をはじめ本会に長く貢献されている諸先輩のご尽力のおかげだと心より敬意を表します。また世界を牽引する日本支部を支える北野正剛支部長、北川雄光前支部長、和田則仁事務局長をはじめ事務局スタッフの皆様の努力の賜物と感じています。

これからも若手外科医の「国際感覚を磨く学会」として、万国外科学会の発展を大いに期待したいと思います。



(図2) 2015年8月23日 バンコクの日本大使館にて調印した大学間協定 北野正剛大分大学学長と Udom K. マヒドン大学学長



(図3) 2017年8月14日 バーゼルにて開催のWCS会場 Yokohama Award メンバーと共に

### 支部活動報告 (2017年1月~12月)

- 2017.4.1 万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース第44号発行
- 2017.4.29 第43回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会 (於: 横浜 パシフィコ横浜)
- 2017.8.13-17 WCS2017 Basel
- 2017.8 山川達郎先生名誉会員受賞  
今野弘之先生 ISDS 会長就任  
東口高志先生 IASMEN 会長就任  
Yokohama Award 第3回 (WCS2017 Basel) 表彰
- 2017.11.1 万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース第45号発行
- 2017.11.25 第44回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会 (於: 東京 東京国際フォーラム)
- 2017.12 ISS Foundation へ寄附金 1500 ドルを送付

### 会員動向 (2018年2月15日現在)

会員数 **349名** (2017年新規会員13名)

内 訳	正規会員	321名
	シニア会員	25名
	名誉会員	3名

視認性と吸収性が求められる術後創へ

## ロイコメドC

フィルムドレッシング

ハイドロゲルパッドが視認性と吸収性を提供

- 創の観察を容易にする視認性
- 湿潤環境を維持するための適度な吸収性
- 固定性と肌への優しさ

THERAPIES. HAND IN HAND. **BSN medical**

TERUMO  
テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-4-1 www.terumo.co.jp

詳細は添付文書をご参照ください。  
TERUMOはテルモ株式会社の商標です。  
LeucoMedはビーエスエヌ・メディカル社(ドイツ)の登録商標です。  
©テルモ株式会社 2018年6月

## 漢方医学と西洋医学の融合により 世界で類のない最高の医療提供に貢献します

自然と健康を科学する  
**漢方のツムラ** <http://www.tsumura.co.jp/>

●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。  
【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

(2017年8月制作) PVC A220-K

### ISDS Kitajima Prize (WCS2017 Basel) 受賞

徳島大学大学院医歯薬学研究部  
消化器・移植外科学 助教  
西 正暁

万国外科学会会員の先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度は2017年8月スイスのバーゼルで開催された第47回 World Congress of Surgery におきまして Kitajima Prize を受賞させていただき、大変光栄に感じております。誠にありがとうございました。2013年にこの賞が設けられて以来、初めての日本人の受賞とうかがい、身が引き締まる思いです。

今回発表させていただきました演題は PROGNOSTIC IMPACT OF NEUTROPHIL-TO-LYMPHOCYTE RATIO IN PATIENTS WITH RECTAL CANCER AFTER PREOPERATIVE CHEMORADIOTHERAPY です。当科

では、進行下部直腸癌に対して積極的に放射線化学療法を施行しており、先輩方が積み重ねてくださった臨床の成果を、このような形で評価をいただきましたことを、大変誇らしく思います。ご指導頂きました当科の島田光生教授に深く感謝申し上げます。

最後に、このような貴重な経験をさせて頂き、北島先生を始め、万国外科学会日本支部の皆様へ深く御礼申し上げます。今後も臨床、研究に励み、Academic Surgeon になるべく、日々精進したいと思います。本当にありがとうございました。

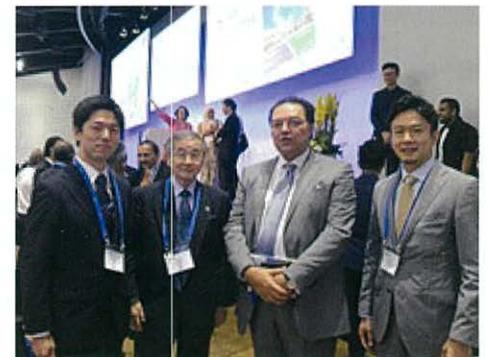


Kitajima Prize受賞 島田光生教授(左)と

再生の新たなアプローチとなることが期待され、本受賞に至ったと考えております。

国際学会には大変不慣れでありましたが、大会場で各国の受賞候補者とプレゼンテーションを競り合った経験は、強い緊張感の中で、今後国際的な視野を持つ非常に良い経験となりました。また、受賞直後にご指導ご鞭撻いただいた先生方や研究室の皆様と共に喜びを分かち合えたことは大変幸せな思い出となりました。

若輩者ではありますが、この経験を糧に世界に貢献できる医師となれるよう、大きな目標を持って一歩ずつ精進を重ねていきたいと思っております。



左から受賞した東尚伸、北島政樹先生、Marco Patti先生、八木洋先生  
2017年8月スイスバーゼルにて

### Lloyd M. Nyhus Prize (WCS2017 Basel) 受賞

慶應義塾大学医学部 外科学(一般・消化器)  
東 尚伸

この度は、2017年8月13日～17日にスイス、バーゼルで開催されました万国外科学会(World Congress of Surgery)において、偉大な外科医でいらっしゃる故Dr. Nyhusの名前を冠した名誉あるLloyd M. Nyhus Prizeを受賞させて頂き、身に余る光栄に存じます。

私は北川雄光教授(慶應義塾大学 外科学(一般・消化器))、篠田昌宏准教授、八木洋講師のご指導の元、2015年より「生体由来の無細胞化臓器骨格を用いた、移植可能な肝臓グラフトの開発」をテーマとした研究に従事して参りました。本研究によって、ブタの肝臓・腎臓を無細胞化することで得られる三次元の臓器骨格を、部分切除した各々の臓器断面に縫着することで臓器の持つ自己再生能を増幅する可能性が示されました。この結果が今後の肝・腎

### 2017年度決算書

2017年度収支決算書.doc (2017年1月1日～12月31日) ISS/SIC  
日本円の部 単位:円

I 収入の部	予算額	決算額	備考
会費	750,000	750,034	6,641ドル
広告掲載料	900,000	750,000	
寄付	0	0	
雑収入	0	83	
当期合計	1,650,000	1,500,117	
前年度繰越金	10,100,286	10,100,286	
収入合計	11,750,286	11,600,403	
II 支出の部			
会議費	400,000	339,685	支部総会開催(春・秋)
通信費	150,000	116,817	
印刷費	400,000	420,420	支部ニュース44号・45号
文具費	10,000	9,275	
交通費	50,000	33,810	
人件費	520,000	520,000	
雑費	20,000	12,888	
予備費	100,000	0	
Yokohama Award 賞金	500,000	500,000	
支出合計	2,150,000	1,952,895	
収支残高	9,600,286	9,647,508	(次年度繰越金)

### US ドルの部

単位:ドル

I 収入の部	予算額	決算額	備考
会費	8,100.00	10,979.06	内 3729.45 は、本部の手違いによる二重送金
利息	0	9.16	
前年度繰越金	4,109.81	4,109.81	
収入合計	12,209.81	15,098.03	
II 支出の部			
日本円へ預替	6,600.00	6,641.00	
スイス本部への寄附	1,500.00	1,500.00	
支出合計	8,100.00	8,141.00	
次年度繰越金	4,109.81	6,957.03	内 3729.45 は、2018年度会費の前払い金としてお預かり

残高 日本円 9,647,508円 (通帳残高 9,614,837円+現金 32,671円)  
USドル 6957.03ドル (通帳残高 6,957.03ドル)

ISS/SIC 万国外科学会 日本支部

2018年1月22日 監事 田中雅夫 印  
2018年2月1日 監事 田尻寿 印

### 2018年度予算案

2018年度 予算案 (2018年1月1日～12月31日) ISS/SIC

### 日本円の部

単位:円

収入の部	予算額	備考
ドルから預替	700,000	6300ドル 1ドル112円で計算
広告掲載料	800,000	8社x2回
寄付	0	
雑収入	0	
利息	0	
当期合計	1,500,000	
前年度繰越金	9,647,508	
収入合計	11,147,508	
支出の部		
会議費	380,000	支部総会2回分
通信費	110,000	
印刷費	380,000	支部ニュース2回発行分
文具費	5,000	
交通費	40,000	
人件費	520,000	
雑費	15,000	
予備費	50,000	
Yokohama Award 賞金	0	
支出合計	1,500,000	
収支残高(次年度繰越金)	9,647,508	

### ドルの部

単位:ドル

収入の部	予算額	備考
会費	7,300.00	
利息	0	
繰越金	6,957.03	内 3729.45 は 2018年度会費前払い金
収入合計	14,257.03	
支出の部		
日本円へ預替	6,300.00	
ISS Foundation 寄付	1,000.00	
支出合計	7,300.00	
次年度繰越金	3,227.58	

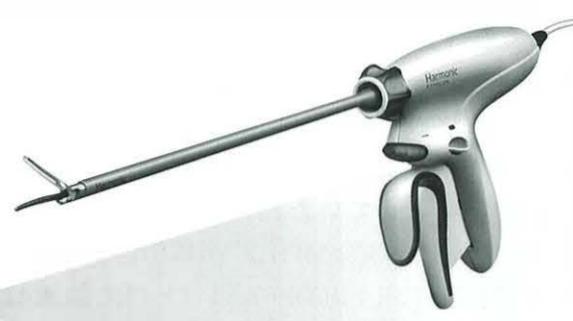
**第44回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会 議事録**  
 2017年11月25日(土曜日)午前7:15~8:00 於:東京国際フォーラム ホールE 地下2階 セミナー室2

出席者: 猪股 雅史、今井 常夫、井本 滋、海野 倫明、岡本 高宏、小澤 壯治、兼松 隆之、  
 菊地 勝一、菊池 寛利、北川 博昭、北川 雄光、北島 政樹、北野 正剛、國崎 主税、  
 桑野 博行、河野 透、小寺 泰弘、小林 道也、今野 弘之、枝園 忠彦、島田 英昭、  
 鈴木 眞一、竹政伊知朗、田尻 孝、寺島 雅典、長田 拓哉、中村 清吾、野村 幸世、  
 橋爪 誠、馬場 秀夫、原口 義彦、東口 高志、比企 直樹、福島 亮治、藤村 隆、  
 堀口 明彦、前田耕太郎、正木 忠彦、松原 久裕、松本 純夫、村尾 佳則、森 正樹、  
 守瀬 善一、山川 達郎、山口 茂樹、  
 (敬称略、五十音順、計49名) (事務局:奥田京子 堀里穂)

- 1. 開会の挨拶** 北野正剛 日本支部長
- 2. 前回議事録の確認**
- 3. 支部活動報告**
- 4. ISS/SIC 理事会報告**  
 北野日本支部長: 69名の新規入会を承認。日本からは十数名が入会した。年会費の納入率が悪い。理事会メンバーが少し改正されたが、私は引き続き理事を務める。Fellowship 制度を導入する方向で進んでおり、申請費用は100スイスフラン(約100ドル)。WCS2021の開催地はマレーシアに決定。
- 5. World Congress of Surgery (WCS) 2017 パーゼル報告**  
 和田日本支部事務局長: 全参加登録者数が98か国1781名。スイスが227名、アメリカが216名、日本が183名と第3位。演題提出数は1258件中、日本は141件と第1位。招待講演は9件、司会は44件と日本が大きく占めている。Yokohama Award 第3回は、5名が表彰。山川達郎先生が名誉会員推戴。また、日本から、Lloyd M. Nyhus Prizeに東尚伸先生(慶應義塾大)、ISS/SIC Poster Prizeに原田洋明先生(呉医療センター)、Kitajima Prizeに西正暁先生(徳島大)、BSI Poster Prizeに長田拓哉先生(富山大)、伊東大樹先生(杏林大)がそれぞれ受賞した。
- 6. Collective Member Societies について**  
 IAES 今井常夫先生: IAESの演題応募数は281件。採択はOralが45件、うち日本からは3件で現在WJSの査読中である。ポスターは53件で、うち日本からは3件。口演とポスターあわせて35%の採択率であった。司会は日本から3名。隈病院長の宮内昭先生がPresident-Electに就任され、2021年マレーシアの学会でIAES Presidentを務めるので、引き続きご支援いただきたい。  
 IATSIC 藤田尚先生がご出席。日本から理事を1名出すことになったとの報告を受けている。  
 IASMEN 東口高志先生: IASMEN Presidentを拝命。新Executive Committee Memberが選出され、小谷穰治先生が、引き続きSecretary/Treasurerに就任。Meetingには福島亮治先生、比企直樹先生も参加された。また、パーゼルでは韓国外科代謝栄養学会のHo-Seong Han教授を招致し、韓国へ影響力を与えた。日本においても、若手の先生方を代謝栄養学に引き込めるよう努力していきたい。  
 BSI 井本滋先生: Councilorを拝命。初日にOncoplastic surgery, Genetics of breast cancerのワークショップがあり、2日目からmain session, debate session, best BSI free paperなど行った。BSI創始者の一人で2016年亡くなられたイタリアのU. Veronesi教授に対し、米国のM. Morrow教授が記念講演を行った。  
 ISDS 今野弘之先生: ISDS日本支部設立に関しては、以前より話があり、私がISDS会長に就任したこと、日本への期待が非常に高いことを受け、この度ISDS-JPを設立し、事務局を浜松医科大学第二外科に置く運びとなった。また、ISS/SIC会長のProf. Andrew Hillが、発展途上国に対する教育にシフトしていく改革を打ち出しており、私達もそのDutyを果たすことが要求されている。新Executive Committee Memberには、引き続きCouncilorに河野透先生、新たにVice Presidentに馬場秀夫先生、Councilorに田邊稔先生がそれぞれ選出された。  
 北野日本支部長: アジアにおける日本の消化器外科の立場は弱く、我が国のスタンスを上げるためAPSDSを組織した。Court of Honorの北島先生を会長として12か国が参加。個人メンバーではなく、国がSociety Memberとして入るため、情報が各国に行き渡り、結果APDWへの参加も増えるのではないかと期待される。そのような流れの中で、ISDSもしっかり組織化し、アジアにおける日本の立場を強めたい。  
 JAWS (Partner Society) 野村幸世先生: AWSは、3つのメインセッションを設けた。私は、Mentorshipに関するセッションで司会を務め、JAWS会長の富澤康子先生もInvited Speakerとして発表。また、AWS/JAWS朝食会を共催し、費用はAWSと折半した。アフリカを含め世界中の女性外科医にご参加いただいた。
- 7. 機関誌 (WJS) について**  
 Associate Editorの片井均先生がご出席。IFが2673でGeneral Surgeryの雑誌としては比較的高い位置を維持。デューク大学教授のDr. Julie Ann Sosaが、2018年より新しくEditor in Chiefに就任すると報告を受けている。  
 島田英昭先生: WJSの投稿は日本から8割が占めており、日本のプレゼンスが高まっている。Editorial Boardに日本人ができるだけ入れるよう、また、遠い将来Editor in Chiefも日本から選出されるような長期構想を提案したい。日本からの採択率やどのような論文投稿が増えているのかなど編集会議での情報を開示してほしい。  
 北野日本支部長: 理事会でも、WJSのデータがあるので、相談しながら開示していきたい。  
 北島政樹先生: 私が編集会議に出ている頃は、各国からの投稿数など細かい情報がまわっていた。片井先生と相談し、ディスクロージャーできるものは開示していく。また、Editor in Chiefを務めたProf. John HunterがPresident-Electに就任したので、話し合う機会をつくってきたい。
- 8. その他** 名誉会員を受賞された山川達郎先生より一言ご挨拶。写真撮影。
- 9. 次回支部総会日程について** 次回の総会は恒例どおり日本外科学会最終日早朝を予定している。

以上(文責 和田則仁)

**HARMONIC® HD 1000i**  
 日本の外科医の理想を追求しました



ETHICON

すべての革新は患者さんのために

中外製薬 | A member of the Roche group

at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY

**AVASTIN®** bevacizumab

日本標準商品分類番号 874291

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF<sup>注1)</sup>ヒト化モノクローナル抗体  
 生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品<sup>注2)</sup>

**アバステン®** 点滴静注用 100mg/4mL 400mg/16mL

薬価基準収載

AVASTIN bevacizumab

注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor(血管内皮増殖因子)  
 注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 中外製薬株式会社 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1  
 ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。  
 https://www.chugai-pharm.co.jp/ 2017年9月作成

**善意と医療のかけ橋**  
 善意の献血による血液製剤を通じ  
 高い倫理観と使命感をもって人びとの健康に貢献します

血液分画製剤(凍結・静注用)人血成分製剤

**献血ベノグロブリンH5%静注** 0.5/10mL・1/20mL・2.5/50mL・5/100mL・10/200mL  
 (生物学的製剤標準 人血ベノグロブリン) (薬価) 10/100mL

血液分画製剤(血液凝固阻止剤)

**ノイアード静注用 500mg・1500mg**  
 (生物学的製剤標準 乾燥凍結人血トロンボゲン) (薬価) 1500mg

血液分画製剤

**献血アルブミン5%静注 15/30mL [JB]** 4/20mL  
**献血アルブミン20%静注 15/30mL [JB]** 15/30mL  
**献血アルブミン25%静注 12.5/50mL [パネス]** 12.5/50mL  
**赤十字アルブミン25%静注 12.5/50mL**  
 (生物学的製剤標準 人血アルブミン) (薬価)

薬価基準収載 (特定生物由来製品) (処方箋医薬品)  
 (注意—医師等の処方箋により使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元 一般社団法人 日本血液製剤機構

血液凝固阻止剤

**アコアラン®静注 600・1800** 600mg/60mL・1800mg/60mL/バイアル  
 (アコトロンゲン ガンマ(Ⅱ)因子産生剤) (静注用)

薬価基準収載 (生物由来製品) (処方箋医薬品)  
 (注意—医師等の処方箋により使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元 協和発酵キリン株式会社  
 協和発酵 一般社団法人 日本血液製剤機構

【資料請求先】  
**JB** 一般社団法人 日本血液製剤機構  
 〒105-8107 東京都港区浜松町2-4-1  
 医療関係者向け製品情報サイト: http://www.jbpo.or.jp/med/dl/ 2018年1月作成

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

**5-HT<sub>3</sub> 受容体拮抗剤** 薬価基準収載  
 劇薬、処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

**アロキシ® 静注 0.75mg**  
 Aloxi. I.V. injection 0.75mg

**アロキシ® 点滴静注用 0.75mg**  
 Aloxi. I.V. infusion bag 0.75mg

パロノセトロン塩酸塩注射液

製造販売元 資料請求先 (医薬品情報課) **TAIHO** 大鵬薬品工業株式会社  
 〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27  
 TEL:0120-20-4527 FAX:03-3293-2451  
 http://www.taiho.co.jp/

提携先 **HEL SINN** スイス 2017年3月作成

プロトンポンプ・インヒビター エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセル

**ネキシウム®カプセル** 10mg 20mg

薬価基準収載 処方箋医薬品<sup>注)</sup>  
 注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、効能・効果に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売元(資料請求先) **第一三共株式会社** 製造販売元(資料請求先) **アストラゼネカ株式会社**  
 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町3-5-1 大阪府北区大深町3番1号  
 0120-189-115 (高圧電圧アプライド/メドトロニック/メドトロニック)

2015年1月作成